

群馬大学工業会関西連合支部 H30年度(2018年度)総会の実施報告

1. H30年度関西連合支部総会

- (1) 開催日時 ; H30年(2018年)11月10日(土)13時30分~14時
- (2) 場所 ; 新大阪丸ビル新館9F 909会議室
- (2) 参加者 ; 37名

他に、ご来賓・ご講演者として本部より、久米原理事長がご同席

(4) 議事 ;

①大河原連合支部長より、配布資料(添付1)に沿って、

a. H30年度関西4支部の活動状況と今後の連合支部活動方針

b. H29年度(第10期:H29/4~H30/3)収支状況報告及びH30年度予算の2件が報告、起案された。

②石川連合支部監査役より第10期会計監査の結果、問題は無いことが報告された。

③前2項の報告・提案に対しての質問、意見は無く、満場一致で承認された。

④その他、新規議案等の提案は無かった。

(5) 報告事項等

①「桐友会」梶代表より、「関西歩こう会」との共同企画として、11月末実施予定の宇治散策会の案内があった。他の会の紹介は、懇親会にて行うこととした。

②大河原連合支部長より、「ふるさと桐生応援寄付金」へのご協力、「工業会賞、社会貢献賞」への推薦の要請があった

2. 講演会 (14時15分~15時45分。於:新大阪丸ビル新館909会議室)

連合支部総会に引続き、群馬大学工業会理事長久米原宏之様(42M)より、「ものづくり・ひとづくり」と題してご講演を頂いた。

ご講演内容は、添付2「講演録」を参照ください。

3. 懇親会 (16時~18時。於:ホテル新大阪2F)

総会会場に近いホテル新大阪にて開催。久米原理事長ご夫妻を含め34名が参加。

支部の交流会活動の紹介がなされた。恒例の鈴木祐二氏(37D)による思い出の歌や、林靖彦氏(40C)の音頭による「関東八州」を合唱し、和やかな時を過ごした。



以上(記:大河原)

<H30 年度関西連合支部総会実施報告の添付 1>

H30 年度 (2018 年度) 群馬大学工業会関西連合支部総会 議事次第及び議事、報告資料

- ・開催日時：H30 年 (2018 年) 11 月 10 日 (土) 13:30～14:00 講演会；14:15～15:45
- ・開催場所；新大阪丸ビル新館 9F 会議室

1. 総会次第及び議事、報告 (司会：川崎副連合支部長)

- (1) 物故者への黙祷
- (2) H30 年度関西 4 支部の活動状況と今後の連合支部活動方針 (大河原連合支部長)
 - ①各支部の活動状況を添付 1 に纏めた
 - ・新卒者、定年退職者層への P R 活動を、積極的に進めていただきたい
 - ②今後の連合支部活動方針
 - ・新たな趣味会、勉強会、などの立上げに当たり、P R 活動などを支援する
例えばお茶会、コーヒー会、I T ツール勉強会など、会員交流の場を拡大
 - ・次年度以降も支部活動一覧表を作成し、本部 H P に掲載して会員に P R する
行事予定が決まり次第、連合事務局まで連絡いただきたい
 - ・メール連絡、メール活用範囲の拡大を図る
メール連絡了解者のアドレス確認、アドレス整理
I T 化環境づくり支援 (アドレス管理のルール作り等)
本部一支部間の会員移動情報の共有化
- (3) 会計報告 (大河原連合支部長)
 - ①添付 2 に第 10 期 (H29/4～H30/3) 収支及び第 11 期予算を示した
 - ②今年度末には、借入金を全額返済できる見通し
 - ③次年度以降の連合支部収支計画は、役員会で協議の上、提案させていただく
課題；連合総会会費、支部活動支援費、I T 環境整備費 などの在り方
連合総会懇親会費の完全独立管理化
- (4) 会計監査報告 (石川会計監査)
- (5) 質疑応答
- (6) その他報告事項 (駒居連合事務局長、会・行事代表者)

2、講演会 講師：群馬大学工業会理事長 久米原 宏之様 (4 2 M)

- (1) 演題；「ものづくり・ひとづくり」
- (2) 講師ご略歴 昭和 19 年 1 月 生れ。群馬大学工学部機械システム工学科教授、
(財)地域産学官連携ものづくり研究機構常務理事などをご歴任、
平成 29 年 6 月、現理事長にご就任

3. 懇親会 (司会：須内副連合支部長)

- (1) 場所：ホテル新大阪 2F
- (2) 時間：16 時～18 時

4. 連絡事項、依頼事項

- (1) 「ふるさと桐生応援寄付金」へのご協力。寄付金の使い道を指定 (理工学部への応援)
できる
- (2) 工業会 100 周年記念行事を予定
- (3) 「工業会賞」、「社会貢献賞」への推薦

以上

H30年度関西連合支部総会・懇親会出席者

(1) 総会・懇親会ともご出席								
	氏名	卒・科		氏名	卒・科		氏名	卒・科
本部	久米原 宏之	42M	奈良	佐藤 正好	40M	大神	和佐田貞一	44修M
京滋	梶 洋二郎	29D	大神	福元喜代恭	41C	大神	大須賀昭一	47C
奈良	関口 貞夫	32CD	大神	木村 直美	42M	大神	根岸 重節	47修M
奈良	腰塚 覚	33CD	大神	澤田 豊	42W	大神	三須 清	48C
大神	藤生 俊夫	34W	京滋	須内 隼二	43K	大神	家住 隆夫	48C
大神	鈴木 祐二	37D	大神	富岡 博彦	44W	大神	駒居 哲也	49TC
京滋	栗原 優	38C	京滋	梅澤 正夫	44W	大神	須永 義明	49W
大神	秦 昭南	39D	大神	遊間 祥雅	45W	和歌山	有北 周平	56修K
大神	卜部 憲二	39W	大神	川崎 幸雄	45W	大神	片山 博志	57W
大神	関 将盛	40C	京滋	石川二三夫	46TW	京滋	立石 雅孝	H03M
京滋	林 靖彦	40C	京滋	大河原秀康	46W	和歌山	加藤 芳郎	H03修E
(2) 総会のみご出席								
	氏名	卒・科		氏名	卒・科		氏名	卒・科
大神	木村 和臣	36W	奈良	田尻 浩二	39W	和歌山	有田 利治	H12修K
大神	永井 孝治	38W	大神	朝倉 正博	42E			
(3) 懇親会のみご出席								
	氏名	卒・科		氏名	卒・科		氏名	卒・科

H30年度関西地区の支部役員一覧

	関西連合支部	大阪神戸支部	京滋支部	奈良支部	和歌山支部
支部長	大河原秀康46W	川崎幸雄45W	須内隼二43K	久保義弘39C	有北周平56M K
副支部長	川崎幸雄45W 須内隼二43K	須永義明49W 根岸重節47M M 和佐田貞一46M M	一瀬正秋48K 梅澤正夫44W	田尻浩二39W	
幹事役員・参与	有北周平56M K 家住隆夫48C 石川二三夫46TW 一瀬正秋48K 梅澤正夫44W 佐藤正好40M 須永義明49W 田尻浩二39W 根岸重節47M M 和佐田貞一46M M	鈴木祐二37D 須田静37W 伊藤博37D 秦昭南39D 関将盛40C 澤田豊42W 伊藤正男47TW 片山博志57W	青柳好泰40C 中川勇43S (大河原秀康46W) (駒居哲也49TC)		
事務局長・総務	駒居哲也49TC	家住隆夫48C	石川二三夫46TW	佐藤正好40M	
副事務局長	(兼)家住隆夫48C				
会計	(兼)駒居哲也49TC	(駒居哲也49TC)			岡野哲也H06M B
会計監査	(兼)石川二三夫46TW	卜部憲二39W		澤田規良41C	

関西連合支部顧問
和田敏郎20C、
境野俊男28W、
五味淵禮三28D、
御園一夫34M、
栗原優38C、
久保義弘39C、
南齋生二46MW

<H30 年度関西連合支部総会実施報告の添付 2 >

H30 年度 群大工業会関西連合支部 総会
群大工業会理事長 久米原 宏之 様(42M) 講演概要

2018. 11. 10

演題「ものづくり、ひとづくり」

1. はじめに、「これからの日本を支える人たちに何を伝えるべきか？」について、工

学部や工業会の成り立ちからお話し頂いた。

群大の成り立ち

明治21年(1888 年) 桐生町立 織物学校設立

明治45年(1912 年) 設立資金 35 万円寄付(県 285,000 円、地元 65,000 円)

大正 4年(1915 年) 12月27日 桐生高等工業学校 設置認可

大正 5年(1916 年) 4月10日 入学式

工業会の成り立ち

大正10年(1921 年) 3月13日(第 3 回卒業式) 桐生高等工業学校同窓会設立

● 工業会の現状

国内 57支部 連合8支部 海外 5支部

会員 35,655 名 (内 住所不明者 8,839 名 約 25%)

実質の同窓会活動は約 2%の会員で支えられている。

(但し、中国での同窓生は、結構忙しくしている人が多いようである)

● 工業会組織の活性化

- ・ 活動者の高齢化と新会員の情報不足
- ・ ICT 化推進 ⇒ 委員会設置
- ・ 学生委員会の設置・・・優秀な学生が大学院生として残っている。

● 工業会活動の活性化

- ・ 在学生の就職支援活動 : 工場見学、講演会、企業説明会
 - ・ 大学の地域や入学希望者父兄への知名度向上
: 観桜会、記念館の有効利用
 - ・ 同窓生の専門知識、キャリアの活用
 - ・ 広報の見直し ⇒ ICT の活用検討・・・事務の合理化
- ### ● 工業会 100 周年(2021)に向けて
- ・ 卒業生のリレー講演会
 - ・ パネル討論会 一地域における今後の大学の在り方一
 - ・ 記念演奏会 : GK オールスターズ、地元のオーケストラ
 - ・ 100 周年工業会史・・・デジタルアーカイブ
 - ・ 工業会支部間のネットワーク ー ICT に向けた整備
 - ・ 記念館の活用 : 現在まで 1,500 名見学、特にオープンキャンパス時 100 名
 - ・ 群大科学技術振興会の活動支援 : 研究助成 40 万円/件 x 8名支援

2. 学内の状況

- ・ 医理工の GFL(グローバル・フロンティア・リーダー)の育成 (飛び級制もある)

北京大学では、就職 1/3、自校大学院 1/3、外部大学院 1/3(内海外 1/3)
多くの学生が海外留学を行いグローバルに働ける人財になっている。

・ その他注力事項

- 1) モビリティ(自動運転)研究
- 2) 新しい学術分野への取り組み
- 3) 医理工の融合研究
- 4) 教育研究センター : 健康、数理情報の研究
生き残りへの大胆改革 ex 教育学部は宇大と連携

3. ものづくり、ひとづくり

育てる : 動物から学ぶ(カラスの巣作り - 設計図も無しに本能でつくる)

「国家 100 年の計は、教育にあり」(ものづくりを体得する)

石器、鉄器、青銅器...どうやってつくられたのか? 失敗作を見てみたい。

製作の要点を知ることができる。⇒ ものづくりにふさわしい人財の育成

西洋と日本の産業技術における 100 年の差

⇒ものは輸入して真似できたが、失敗の経験は輸入できなかった。

失敗の取扱い方が重要...人を育てる時のポイント:人を育てる環境づくり

失敗を責めない(失敗を研究する) ⇒ 成功を共に慶ぶ環境づくりが重要

失敗から次のチャレンジによって得られた成果に意味がある。

- ・ 本質への気づき・機能創出を体感

What、Need を感じ取って価値を先に把握すれば、優位性が得られる。

- ・ 経験(五感) ⇒ ひらめき(創造)
- ・ 形から無形のもを感じ取る力(真の感受性)

この真の感受性を育てるには、子供時代が大切

- すべてのステップを経験した人を指導者として、中小企業の技術者を育てる
ものづくり基盤技術産業活性化人財養成研修
- サイエンス アカデミー ...子供対象に発表の仕方、ものづくりの楽しさを教える
- 太田キャンパス ... 一社一博士の創出
 - ・ サポイン支援からの人財育成
 - ・ 技術と魂の伝承の重要性
(接触時間の因子が重要)(学びたい気持ちがないと始まらない)

◎ ものは人から創られる ⇒ もの創りは人創り

- ・ ひととは人をみて育つ = お手本 = 時間・空間的環境

◎ 生きている本質 : 自然の中での役割を認識して、循環での役割を果たすこと
= 生きている証

自然との調和を考える心を育み、未来社会への連続性を担う人を育てることが重要課題

⇒ お手本となる人が育ち未来への循環が起こると締めくくられた。

(記;有北)